

# 戦争法案反対

## 親子連れ150人が行進

### 静岡 ママ4人呼びかけ

「大切な人を守るために集まろう」  
「今必要なのは、みんなの想像力と行動力」。静岡県清水町で26日、子育てママ4人がよびかけた戦争法案反対のパレードに、子ども連れの若い母親らが次々と集まり、150人の行進になりました。  
(静岡県・内田伸治)

### 学習会を8回重ね

呼びかけたのは、福島原発事故以降に放射能の危険から子どもを守る運動などでつながりができた三島市、裾野市、長泉町の主婦4人。自民党の改憲案に危機感を抱き、3月から8回の学習会を重ね、各地の集会・デモにも参加。地元で子どもたちも一緒に参加できるような意思表示をしたと、初めてパレードを企画しました。

主催者の一人、馬籠峰里(まごめ・みねり)さん(41)は、「子どもたちを戦場に送り出すわけにはいきません。子どもを大切にしない安倍政権を変えなければ」と話します。

柿田川公園で行われたリレートークには、函南町の九条の会や呼びかけを聞きつけた人たちが思いをぶつけました。妊娠中の女性は「子どもたちに武器を持たせたくない。殺してほしくないし殺されたくない。み

## 大切な人 一緒に守ろう



戦争法案反対の初めてのパレードで訴える、浅羽さん(中央)、馬籠さん(その右)＝26日、静岡県清水町

んなで動けば変わります」。

パレードでは、思いおもいの願いを書きこんだうちわを掲げ、ペットボトルの

マラカスで音を鳴らし、「子どもを守れ」「恋人、夫を戦争行かせない」とコール。沿道の若い男性が一緒にコール。信号待ちの女性が携帯のカメラで撮影。男子小学生が手を振る姿もありました。

### 武力でなく対話で

パレードは初めてという人が多数参加。長泉町から3歳の娘を連れて参加した

女性(37)は「武力でなく対話で解決しないと逆効果。デモは身近でやるには周りの目もありきらい。しかし、強行採決をする政権に何かせずにはいられない」。三島市の女性(33)は「子どもも『戦争が怖い』と話している。勝手な解釈で国民の声を聞かず強引に進める政治に危機感を感じている」。函南町の女性(42)は「文句を言っているだけでは変わらない。夫や娘たちのために来た」といいます。

日本共産党の鈴木ちか参院選挙区候補、三島市、清水町、函南町の各議員、民主系などの三島市議、清水町の無所属町議、民主党後援会員なども参加しました。

事務局の浅羽愛(あさば・あい)さん(39)は「全てのお母さんが誇りをもって戦争法案に反対しなければ、戦後に新しい憲法が生まれた意味がありません。あらゆるつながりをいかして、反対の世論を広げたい」と決意しています。